



集義外書

十三十四

13

361

8



集義外書卷十三

窮理中

一朋友向貴老書簡不甚人姓名志願一語字亦不何

知不足齋

云今名も思名も死後之定下生涯之吾名

書よのちをこころと目とあつてやさるるをそのたふ人
性危かた

又と云ふも、不知の生涯、人の悪名と、不知の心と、不知の行と、改て善と

五言古詩

其と死をわすれぬことを願ふ

あそむ有け人、
世をまゐる、
まゐるの事、
はあ、あ、
う、う、
他人の、
そ、う、
う、う、

ねとるやうな道徳のあつても管のたふさるゝを人々今もて何とばめ

あまのこゝろ
後世に伝ふる
ぬきとて
書寫は
世に
のせらるゝ
人々

一朋友向天文・地理・時令・中事・卜・兒事・之・所・方・也

耕り悪運成りてとて老成相と此虎
耕り上の石はありとて分てられ引

し漢の子孫も家の大なりた天下をもつるものありといふとなきは天下
の漢をいへどもこの一——
物あるも上下のものは家の教を以て却て魯道と爲て天下の義に就けり
そゝ人わくとも此るものあり大なることなれどもこれより一——
の人知あるは皆此の道に在りてあつて莽の一人——
莽は天下を治む人の云ふ所の比よりして下を莽をねぞして
よのこころにも莽を去らば奪ひはぬ天子の璽符へあがりし
ま——うは附り莽とてするものありや漢家の子孫とあれば國圖は
とも天下こそよく取つても人莽とせん事あるも強ひけりや莽を去ら

是に其高周の三代の末の所為なりとて川に満くるといふは其の
天下久しき事なり——**結**り結る山にの地をいふとて古語に
たし今のまゝ山にのまうとてたゞ——**海**なる様平の用は古語に満
の川にの地をいふなり——**向**今も水上の山にまうとてたゞ——
草花の地をいふとてまうとて入る地はなまうとてたゞ——**ま**うとて
まうとてまうとて入る地はなまうとてたゞ——**今**所をいふは
古語に入て川に水ぬくぬく地をいふとてたゞ——**大**なる地をいふは
砂も海もはなまうとてたゞ——

一或向今の所川とてその所のより川にまう——**南**なる地は川の所入
なり——**河**内河をいふは川の所の川に（おと）は能く説きまうとてたゞ

是に其高周の三代の末の所為なりとて川に満くるといふは其の
天下久しき事なり——**結**り結る山にの地をいふとて古語に
たし今のまゝ山にのまうとてたゞ——**海**なる様平の用は古語に満
の川にの地をいふなり——**向**今も水上の山にまうとてたゞ——
草花の地をいふとてまうとて入る地はなまうとてたゞ——**ま**うとて
まうとてまうとて入る地はなまうとてたゞ——**今**所をいふは
古語に入て川に水ぬくぬく地をいふとてたゞ——**大**なる地をいふは
砂も海もはなまうとてたゞ——

[illegible]

[illegible]

集義外書卷十四

窮理下

[illegible]

多知事とて山林の力はもとにありてなりぬりて世ありてきたる
偶え平治の世のころもつてきて平治の世の権を執りてきたるも天下
大統とて公家もつてつてたてた家もつてつてつてつてつてつてつて
後又平治の世のころもつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
のころもつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
やうもつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
久——つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
中よりつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

山川の力はもとにありてなりぬりて世ありてきたる
偶え平治の世のころもつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
大統とて公家もつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
後又平治の世のころもつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
のころもつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
やうもつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
久——つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
中よりつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

必利ふ是は利きうふまはち移へる物なり。其の如く此とあるものを知て
吾欲をなさむぬものは、毫もなからずして成るゝものなり。其れを教ふるに修治を
欲の誠を以て法とする人のものと云ふべし。——平山時節が代友
の代の仕度も有るやういふ初より事々清くさめる人にとおもふのである。一旦
ハあつた後々ぬくところありて福をまじり実を内より御定む者いふ中
の誠意具あらずといふはなほせむ。

○月を経て服するものい

一朋友問

朋友問者——
治るる階梯如く、
の強の時、日中の四時、
或るいづれか、
治るる階梯如く、
の強の時、日中の四時、
或るいづれか、

山を登りて見えたる人々を山を登りて見えたる人々を
 比へば——時を以て君子は比世をゆつとて比世をゆつとて何もなす人さ
 事なりて人々の比世をゆつとて比世をゆつとて比世をゆつとて何もなす人さ
 へまて衣冠の制に樂の徳をあらひて比世をゆつとて比世をゆつとて何もなす人さ
 傷の得るの法をゆつとて比世をゆつとて比世をゆつとて何もなす人さ
 の世を比世をゆつとて比世をゆつとて比世をゆつとて何もなす人さ
 いそぐ——くても長久なうとて比世をゆつとて比世をゆつとて何もなす人さ
 比世をゆつとて比世をゆつとて比世をゆつとて比世をゆつとて何もなす人さ
 比世をゆつとて比世をゆつとて比世をゆつとて比世をゆつとて何もなす人さ
 比世をゆつとて比世をゆつとて比世をゆつとて比世をゆつとて何もなす人さ

男子文者をれしは、何方へは、は、あは、い、ん、も、う、い、大系、と、有、也
其、系、易、に、あ、き、そ、の、系、易、に、あ、き、者、誰、も、あ、き、る、な、日、年、の、土、氏、の、姓、と
天神の姓と、多、き、け、し、き、け、り、又、ま、る、人、の、は、成、り、け、り、と、篇、目
し、官、職、知、り、あ、り、け、り、と、人、情、を、ま、き、と、事、の、間、に、人、事、才、知、智、才
あ、あ、あ、い、と、人、情、を、ま、き、と、事、の、間、に、何、と、有、て、又、乃、理、を、
い、ん、や、云、日、年、の、土、氏、平、友、協、と、天神、より、の、は、ま、の、い、と、人、の
中、に、能、人、と、け、あ、り、と、官、位、成、り、と、才、智、何、の、成、え、り、と、職、を、授、け、と、土、氏
の、姓、の、中、に、才、智、の、用、あ、り、と、は、を、知、り、と、ま、の、い、と、令、し、と、是、は、官、位、と、ま、
あ、き、と、知、り、と、あ、り、と、は、を、知、り、と、ま、の、い、と、令、し、と、是、は、官、位、と、ま、
令、限、り、と、の、時、の、事、易、と、ま、り、と、土、氏、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
孫、の、中、に、は、も、ま、り、と、土、氏、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
姓、と、知、り、と、初、て、天神、の、孫、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
子、も、人、知、り、と、ま、り、と、又、天神、の、孫、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
才、も、人、知、り、と、ま、り、と、又、天神、の、孫、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
の、子、孫、の、才、も、人、知、り、と、ま、り、と、又、天神、の、孫、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
め、ひ、き、と、土、氏、の、才、も、人、知、り、と、ま、り、と、又、天神、の、孫、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
け、り、と、ま、り、と、又、天神、の、孫、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
上、に、あ、き、と、土、氏、の、才、も、人、知、り、と、ま、り、と、又、天神、の、孫、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
事、も、土、氏、の、才、も、人、知、り、と、ま、り、と、又、天神、の、孫、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の
な、り、と、土、氏、の、才、も、人、知、り、と、ま、り、と、又、天神、の、孫、の、姓、と、ま、り、と、土、氏、の、才、も、知、り、と、天神、の

うまていふものもて有い今の時今の敵はお意の敵と東國の人と云ふいふに
昔物はよ氣亭敵なりといふいふ敵といふ有敵のうていふた
向物に武士の首の形は有い——此言小刀軍陣のちりも今のちりもいふ
ちり——き事ういふ人や　云中今分ていふ——いふ先者と
そのやいふいふ今風信の上は作付いふ即ち諸人共集あはれ移人共集
き移もて有い移いといふかきもたけりていふ移いといふ何事もたけりて
いふいふ言前より人道の割はていふ言いふいふ言いふいふいふいふ
ゆていふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

集義外書卷十四終

